

ミャンマーにおけるNPO支援 ミャンマー（ヤンゴン、マンダレー） 2018.3.11~3.15

健康総合科学科 公共健康科学専攻 2年 金田百恵
 健康総合科学科 環境生命科学専攻 2年 鄭翌

渡航先での活動内容

1日目 ワッチェ慈善病院訪問

海外・発展途上国に医師・看護師を派遣し、アジアの子どもたちの命を守る国際医療ボランティア組織である認定NPO法人ジャパンハートによる、ミャンマー事業プロジェクトの一つであるワッチェ慈善病院を訪問させていただきました。



図1:ジャパンハート診療室

ジャパンハートでは2004年の創立当初から、ミャンマー中部ザガイン地区ワッチェ村の一角にあるワッチェ慈善病院で手術活動を行っている。今では、ミッションと呼ばれる月に1回か2回ほどの手術を



図2:ワッチェ慈善病院の病床

こなす。その手術のほとんどをジャパンハート創設者の吉岡先生1人で1日平均20件行うというから驚きである。今回は現地で活動されている看護師の方に病院内を案内していただいた。開放的な病床や診察室など日本との違いに驚きながらも、ミャンマー人と日本人の医療従事者が互いに力を合わせて和やかに医療活動を行っている姿がとても印象的であった。また保険制度がないミャンマーならではの医療制度や遠隔地医療の現状、ミャンマーの様々な健康問題についてたくさんの質問に答えていただき、今までは知らなかったミャンマーの医療に関して深い知見を得ることができた。



図3:現地の職員さんと



図4:ワッチェ慈善病院正門



図5:カルテ、左一般人右お坊さん

2日目 セーブ・ザ・チルドレン ヤンゴン事務所訪問

セーブ・ザ・チルドレンは、1919年にイギリスで設立された非政府組織(NGO)であり、児童の権利に関する条約を理念とし、子どもの権利の保護を目標として活動している。

今回はセーブ・ザ・チルドレンのヤンゴン事務所を訪問させていただきました。事務所ではプロジェクトマネージャーの方に



セーブ・ザ・チルドレンの紹介や活動の現状などをご説明していただき、多民族国家であるミャンマーで活動する苦労や、ミャンマーならではの医療問題など新たな視点からの有意義なお話を聞くことができた。また様々な経歴を経て今に至る高橋さんから、キャリアに関するとても深く貴重なお話を伺うことができ、今後の進路に関しても深く考える良い機会となった。

3日目 ジャパンハート ヤンゴン事務所訪問

最終日は1日目にお世話になったジャパンハートのヤンゴン事務所を訪問させていただきました。ここではプロジェクトコーディネーターの方にジャパンハートの紹介や活動の現状を説明していただいた。ジャパンハートが誕生した経緯やその多様な活動、ミャンマーで活動することの苦労などを知ることができた。改めてジャパンハートの活動のすごさや桂さんをはじめとしてミャンマーで活動しておられる医療従事者の方々の思いを感じることができた。



図6:信仰の象徴パゴダ



図7:ヤンゴンの繁華街



図8:ワッチェ慈善病院診療風景



図9:ワッチェ慈善病院手術室



図10:寄付された薬品

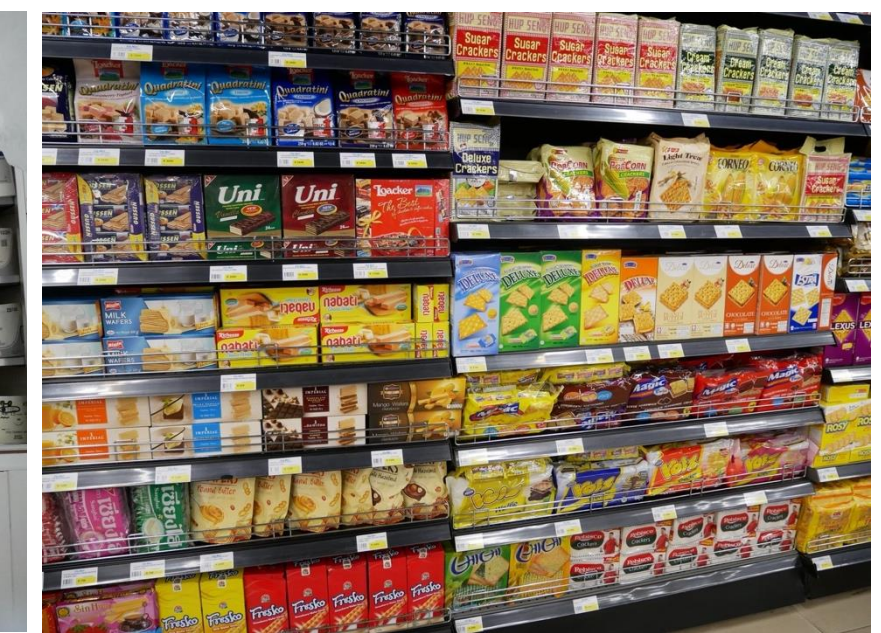


図8:輸入食品のスーパー

国際支援に関して新たな知見を得た

ミャンマーは世界でも有数の仏教を重んじる国であり、人々の温かさや伝統を大切にしている姿に感銘を受けた。街中は人々の笑いと活気に包まれ、伝統衣装ロンジーを着た人々で溢れていた。しかしその一方で保険制度や救急車がなく、医者や看護師が極端に少ないなど、医療に関する問題は山積みであり、民族間対立がその現状を助長している。また国外の者が活動するためには難しい手続きを踏む必要があり、NPOやNGOの方々が様々な壁にぶつかりながらも相手の文化を深く理解し懸命に活動している様子を見ることができた。

万全とはまでは言えないが医療制度が整っている日本からすると驚くことが多々あり、同時に支援の可能性を深く感じた。この研修により今まではほとんど知ることがなかったミャンマー医療の現状や途上国支援の実際について深く知ることができ、本当に有意義な時間を過ごすことができた。

(金田)

ミャンマーは信仰強い国だった。自分たちの文化と国を守り、誇りを持っている。そのため民族の間で紛争も起きるし、外部からの知見を拒む傾向もある。しかし、このような信仰強さこそ精神健康につながっているのではと感じた。信じる力があり、身体的に健康じゃなくてもその人生は幸せである、一方で身体的な健康ばかり注目し、精神的に不健康だったら、医療者の私たちはどうアプローチすべきだろうか？不摂生でも楽しく生きてほしいと私は思うが、果たして医療のあり方としてどちらの方が正しいだろう。

21世紀の医療支援はどこに向かっているのか、正直まだ答えを見出していない。結局現地に行っても、ミャンマーの一番の繁華街しか見えてなく、本当に支援を必要としている人々は見えていなかった。残念なことでもあるが、ミャンマーの中ではこんなにも格差があることに驚いた。

物資だけを渡すには足りない。医療が本当の意味で全ての人に届くためには、格差の改革、医療教育、文化人類学からの意識改革など、本当に広い視点からアプローチしなければならない。私たちが授業で学んでいる一見雑多な内容はこのように医療の現場で絡み合っていると実感した。

(鄭)